

No. 17 都市計画道路 西海岸線 街路整備事業

事業概要

1事業の目的

(1) 本路線は、三浦半島の最南端に位置する三崎港付近を起点とし、小網代湾を跨ぎ、国道134号の三崎口駅付近に至る、全長約5.7kmの都市計画道路である。

(2) 本路線は、三浦半島の南北軸を形成し、国道134号や県道26号（横須賀三崎）など現道の渋滞緩和や、災害時の対応力を強化する路線である。

(3) 本路線は、「城ヶ島・三崎地域」が目指す横浜・鎌倉・箱根に次ぐ国際的な観光地づくりの取組みを交通の面から支える重要な路線である。

2事業の内容

(1) 起 終 点：三浦市三崎町小網代～初声町下宮田 地内

(2) 事業延長：2.8 km

(3) 幅 員：17.5m（一般部）、15.5m（橋梁部）

(4) 交 通 量：計画交通量 10,800台/日（令和12年交通量推計）
現況交通量 —

(5) 道路規格：第4種第1級

(6) 設計速度：60 km

(7) 車 線 数：2車線

(8) 歩道形態：両側歩道

(9) 主な工種：道路改良工、橋梁工

3今後のスケジュール

・令和5年度から調査（用地測量）に着手し、令和15年度完成を目指す

年度	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
項目	(2023)	(2024)	(2025)	(2026)	(2027)	(2028)	(2029)	(2030)	(2031)	(2032)	(2033)
調 査	用地測量等										
埋蔵文化財調査											
用地補償											
工 事											

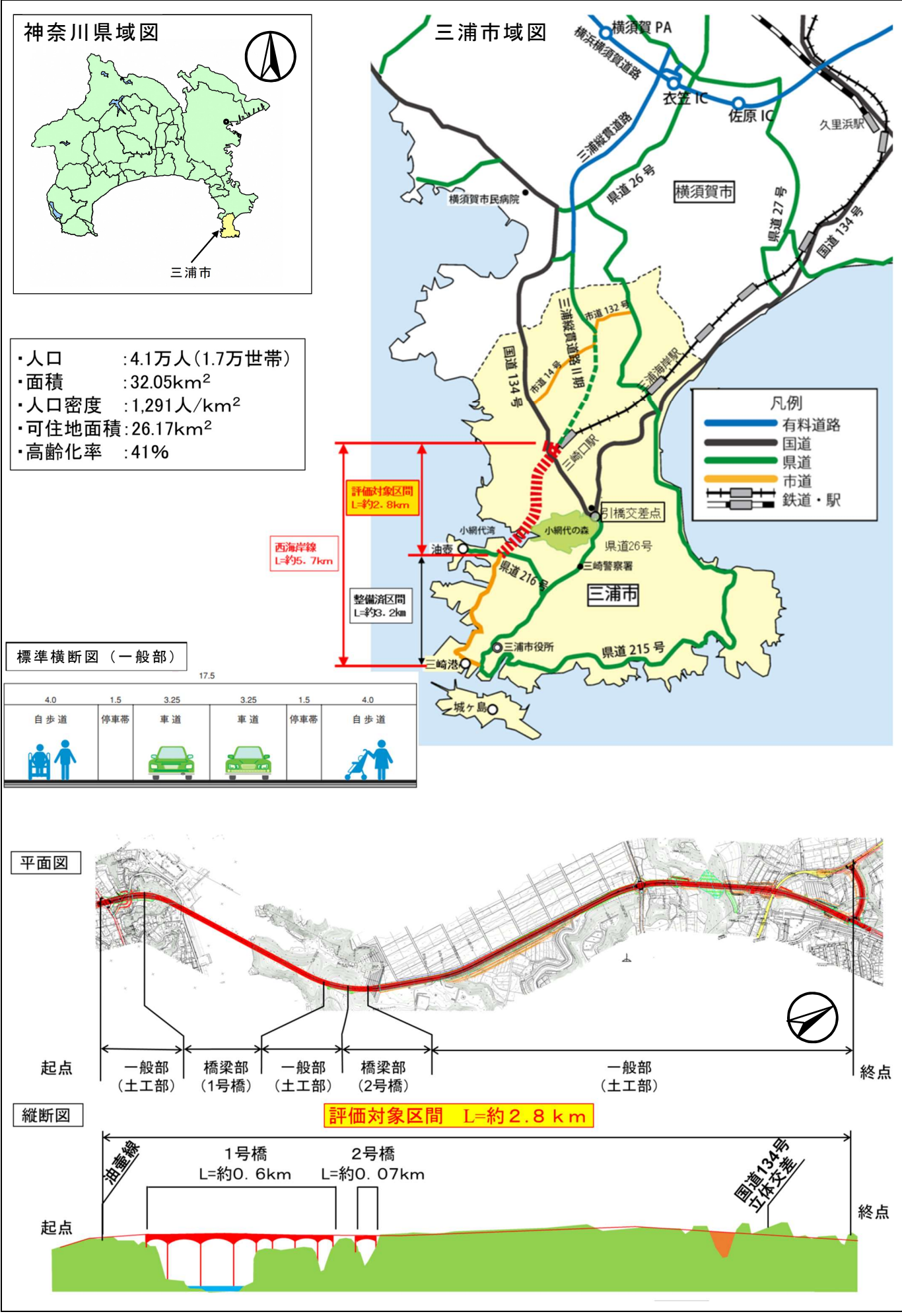
4事業見込額及び内訳

総事業費	130億円
事業費内訳	測 量 設 計 費： 1.2億円 埋蔵文化財調査費： 9.0億円 用 地 補 償 費： 9.4億円 工 事 費：110.4億円

5評価対象事業の位置づけ

(1) 県の計画：a) かながわランドデザイン第3期実施計画（令和元年7月）
・「交流幹線道路網の整備」として位置づけ
b) かながわ交通計画（令和4年3月改定）
・整備を推進する「一般幹線道路網」の一部を構成
c) 改定・かながわのみちづくり計画（平成28年3月）
・「交流幹線道路網の整備」として位置づけ

(2) 市の計画：a) 三浦市都市計画マスタープラン（令和元年12月改訂）
・「都市核と市外の各都市をつなぎ、交流の活性化を促進させる交通軸」として位置づけ



N o . 1 7 都市計画道路 西海岸線 街路整備事業

事業評価	
評価の視点	1 事業の必要性等に関する視点
	(1) 事業を巡る社会経済情勢
	ア 地域の状況 「城ヶ島・三崎地域」では、国際的な観光地づくりを目指し、今後、観光誘客施設等の建設が予定されるなど、観光需要の増加が見込まれており、アクセス強化を図る必要がある。 - 国道 134 号や県道 26 号（横須賀三崎）では、休日などを中心に慢性的な渋滞が発生しており、市民生活はもとより、観光、農水産業などに影響を及ぼしている。
	イ 事業地の状況 - 評価対象区間は、県道 216 号（油壺）から橋梁で小網代湾を跨ぎ、近郊緑地保全区域内（平成 17 年指定）や広大な農地の脇を通過して、三崎口駅付近で国道 134 号に接続する。区間内には、数多くの埋蔵文化財包蔵地が分布している。 - 評価対象区間の隣接部には、干潟を有し、自然環境豊かな小網代の森（約 70ha）が残されており（近郊緑地特別保全地区（平成 23 年指定））、四季を通して様々な動植物が観察できるなど、自然ふれあい拠点となっている。また、こうした自然豊かな景観を背景に、レジャーリゾートであるマリナーが立地している。
	(2) 事業の投資効果
	ア 費用対効果 総費用 C=109 億円 総便益 B=332 億円 事業費：102.2 億円 維持管理費：7.1 億円 走行時間短縮便益：312.7 億円 走行経費減少便益：17.6 億円 交通事故減少便益：1.8 億円 経済的内部収益率（EIRR） 11.0% 費用便益比 $B/C = 332/109 = 3.0$（社会的割引率 4%）
	イ 総合的な効果 (ア) 安全・安心・利便性 - 評価対象区間へ交通の転換が図られることで、休日を中心に激しい渋滞が発生している国道 134 号の「引橋交差点」などの渋滞緩和に寄与する。 - 三浦市の中心部から第 2 次救急医療機関である「横須賀市民病院」への利便性向上が図られる。 (イ) 防災 - 三崎漁港は県地域防災計画の「物資受入れ港」に指定されている。本路線の整備により、第 1 次緊急輸送道路である国道 134 号や県道 26 号（横須賀三崎）の代替ルートが確立され、防災面での機能強化が図られる。 (ウ) 地域の活性化 - 首都圏へのアクセス性が向上し、特定第三種漁港の三崎漁港からの物流の円滑化が図られ、地域経済の活性化が期待される。また、「油壺」や「城ヶ島・三崎地域」への新たな観光ルートが確立することで、地域の観光振興が期待される。



N o . 1 7 都市計画道路 西海岸線 街路整備事業

事業評価	
評価の視点	1 事業の必要性等に関する視点
	(3) 事業の実施環境
	ア 事業の実行性
	・都市計画変更（平成 13 年 11 月） ＜参考＞説明会時（平成 12 年 12 月）の主な意見と回答
	○なぜこのようなルートを選定したのか。 ⇒現在都市計画決定されているルートは、小網代湾を埋め立てる計画であるため、自然環境への影響が大きいことから、橋で小網代湾を跨ぐ干潟への影響が少ないルートを選定。
	○橋を架ける場合、海にどのような影響があるのか ⇒現段階では湾内に橋脚を建てるかは未定。今後、経済性等を含めて総合的に判断。
	※ 法定縦覧時の意見「なし」
	イ 事業の成立性
	・都市計画事業認可を取得し、国費を活用しながら整備を推進する予定。
	ウ 地元の意識
	・「三浦半島地域広域幹線道路整備促進期成同盟※ ¹ 」及び「三浦市幹線道路整備促進協議会※ ² 」から、県に対し毎年、早期整備が要望されている。 ※ ¹ 4 市 1 町の首長及び商工会議所会頭等により構成：昭和 45 年設立 ※ ² 市長、商工会議所会頭、区長会会長等により構成：昭和 60 年設立
評価の視点	・事業概要等の資料を沿線自治会内に各戸配布し（令和 2 年 9 月）、意見等を受付。 ＜参考＞約 1,200 部の配布に対する 1 件の意見と回答
	○人口減少が進む中、道路の整備が必要なのか。 ⇒地域経済の活性化や、災害時の対応力の強化などの観点から整備効果は高い。
	エ 自然環境等への配慮
	・評価対象区間は、小網代湾や近郊緑地保全区域内を通過することから、生態学の専門家等の意見を伺いながら環境調査を実施。保全対策等を専門家等の意見を伺いながら進めていく。
	(ア) 植物
	希少植物を 3 種確認。引き続き、専門家の意見を伺いながら、適切な保全対策（移植先・移植時期等）を検討し、事業実施にあたり措置を講じていく。
	(イ) 動物
	希少動物を 1 種確認。引き続き、専門家の意見を伺いながら、適切な保全対策（防音・施工時期等）を検討し、事業実施にあたり措置を講じていく。
	(ウ) 海域環境
	小網代湾内に橋脚を設置する計画だが、これによる潮流の変化は僅かで、橋脚近辺に限られると予測されており、干潟周辺の潮流の変化はないことから、水質・底質の変化等、生息環境の質的な変化は少ないと考えられる。 また、工事実施にあたっては、濁りの拡散を低減するため、施工箇所周辺に汚濁防止膜を設置するなどの措置を講じていく。
評価の視点	※ 上記（ア）から（ウ）については、生息状況等を把握するため、専門家等の意見を伺いながら、事業中、事業後のモニタリングを実施していく。

	(工) 景観
	小網代湾を跨ぐ橋梁は、小網代の森からの景観に配慮し、縦断線形を低く抑える計画とする。
	施工時に樹木の伐採が必要となるが、その範囲は最低限とし、伐採した範囲は、工事完成後の少しでも早い樹林回復を図るため、専門家の意見を伺いながら、現地に適した植樹（樹種・配置）を行う。
	また、橋梁については、周辺の景観に配慮し、専門家や地元などの意見を伺いながら詳細な設計を進めていく。
	オ その他
	・数多くの埋蔵文化財包蔵地を通過するため、計画的に試掘調査や本調査が実施できるよう関係機関との調整を進める。
	・評価対象区間終点付近の三崎口駅周辺は、三浦市の都市計画マスタープランで「定住・交流を支える機能が集まる代表的な市街地」と位置付けられており、市の取組動向を注視し、必要な場合は連携して取り組むよう調整に努める。
	2 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点
	・旧都市計画では小網代湾を一部埋め立てる形で湾に沿ったルートとなっていたが、自然環境に与える影響などを総合的に判断した上で、都市計画変更の手続きを経て、小網代湾に架橋する現ルートに至った。
	・細部の設計にあたっては、可能な限り小網代の森からの景観の配慮や、コスト縮減を図るため、橋梁の縦断線形を低く抑える計画とした。
対応方針（案）	本事業は、国道134号等における交通渋滞の緩和や、災害時の対応力の強化、地域経済の活性化に寄与するなど、事業の必要性・効果は高いと判断できるため、新規事業として着手することは適当である。
	事業区間の近傍には、自然豊かな小網代の森があり、自然環境の保全・再生や優れた景観の形成に十分な配慮が必要であることから、事業実施にあたっては、これらに十分留意の上、各分野の専門家に幅広く意見を伺い地元住民等の理解と協力をいただきながら、取り組んでいく。